

■郡山市公共下水道雨水管理総合計画 概要版



1 計画策定の目的

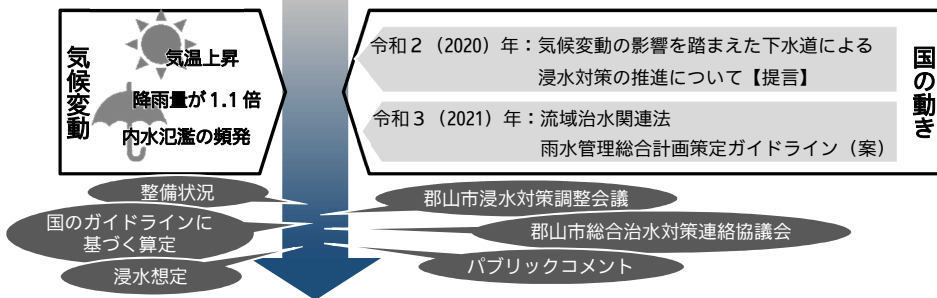
国土交通省が気候変動の影響を踏まえ水防法及び下水道法に基づき令和3（2021）年度に策定した「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」に則り、郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン後の気候変動の影響を踏まえた下水道による浸水対策の方針を示すもの。



2019（令和元）年5月15日 堂前地区

下水道による事前防災のための施設整備、市と市民の協働による浸水被害の軽減や命を守るための減災対策の目標を明確化して目的意識の共有化を図り、流域治水を推進する。

郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン 平成26（2014）年度～令和4（2022）年度



郡山市公共下水道雨水管理総合計画 令和6（2024）年度～

～気候変動の影響を踏まえた下水道による浸水対策の方針2.0（郡山市ゲリラ豪雨対策9年プランの承継）～

郡山市ゲリラ豪雨対策9年プランの承継

- 市内5地区の重点地区の位置づけ
- 雨水貯留施設への集水効率向上
- 止水板・雨水流出抑制施設設置補助金

拡充

- 気候変動の影響を踏まえた施設整備の目標の設定
- 地区ごとの整備検討優先度の明確化
- 防災・減災のための3段階の目標設定

2 気候変動の影響を踏まえた施設整備の目標の設定

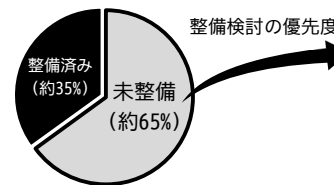
事前防災のための施設整備の目標となる計画降雨について、ガイドラインに示された平均気温が2℃上昇した場合を想定した気候変動の影響を踏まえた手法により算定。

ガイドラインに基づく算定結果：50mm/h（10年確率）

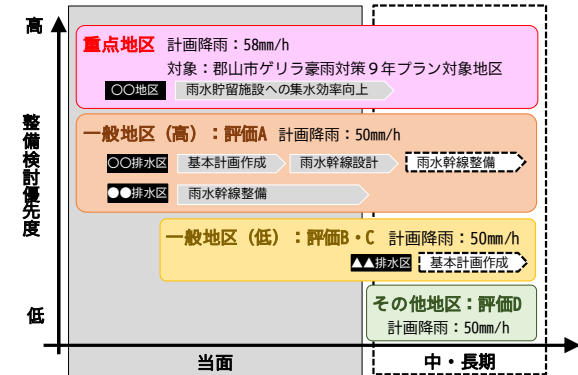
※郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン対象地区は、重点地区として従来通り58mm/hとする。

3 地区ごとの整備検討優先度の明確化

地区ごとの浸水しやすさや資産分布の評価（リスクマトリックス）から未整備地区の施設整備の検討優先度を明確化し、効率的な整備を推進。



雨水幹線の整備状況（集水面積ベース）

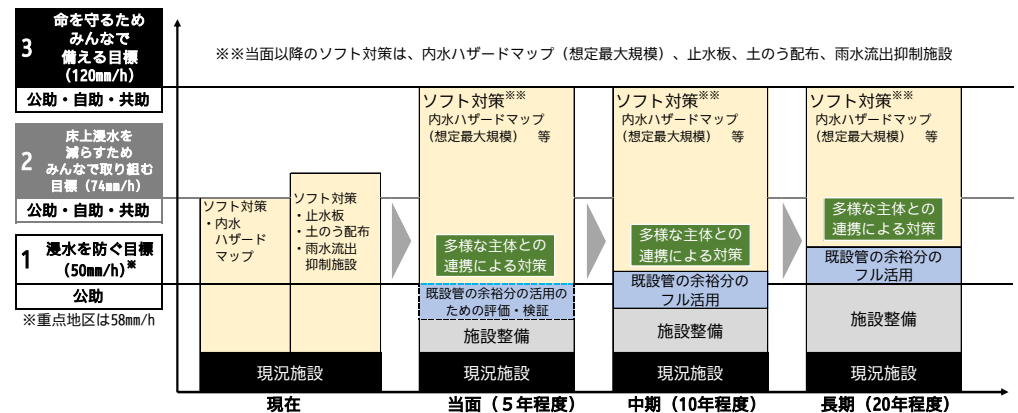


時間軸を考慮した施設整備の内容・スケジュールのイメージ

4 防災・減災のための3段階の目標設定

ガイドラインに基づき、事前防災のための施設整備の目標のほか、気候変動下における減災対策の目標として74mm/h^{※1}と120mm/h^{※2}を加え3段階の目標を設定する。また、施設整備には相当の期間を要することを踏まえ、公助・自助・共助による当面・中期・長期における対策の考え方を明確化する。

注1：74mm/hは現行の内水ハザードマップでの想定降雨（H22.7.6の実績降雨）
注2：120mm/hは国が示す想定最大規模降雨



5 定期的な点検・見直し（CAPDサイクル）

本計画は、浸水被害発生状況や対策の進捗等を勘案し、5年に1回程度の定期的な点検により見直します。